

東野小学校最初の校舎

東雲義校 明治初期



広報ひがしの

人口1633人

(男)829人

(女)804人

637世帯

(R5.1.1現在)

東野小学校の変遷

明治五年、学制の発布により、全国各地に小学校が誕生します。

その中で、美濃地方は官費に頼らず民間の拠出金で学校を設立する義校方式を採用しました。明治8年までに700校近くの小学校が誕生しました。これは全国でも上位に位置するものでした。新しい制度を短期間で実現した郷土の先人の活躍は素晴らしいものです。

表紙の写真は、東野で最初にできた学校です。官費に頼らず、地元力で建てた学校です。この学校を東雲義校と呼びました。この当時、周辺の各地でも次々と学校ができていました。財力のある地域の学校は立派なものでしたが、東野はそんなに豊かではなかったため、少しみすぼらしいですが、それでも精一杯の学校であったと思います。先祖に感謝です。

学校の歴史・東野小学校

寺小屋の時代



江戸時代は

「百姓には学問はいらぬ」というのが、一般の考え方でした。当時の農村生活では、そんなに学問を必要とせず、書くこととは名前が書ければ十分で、特に女子は、炊事や和裁以外は必要がないとされていました。

しかし、貨幣経済の発展、商品の流通の拡大など社会の進歩は、一般農民の間にも計算能力や簡単な文字の読める力などを要求し、次第に寺小屋にもたくさん子どもが集まるようになりました。

東野では嘉永年間以前までは宗久寺の寺僧に読み・書き・算盤を習いました。

嘉永元年から明治五年までは、神官の松浦佐市、伊藤善兵衛、伊藤仁兵衛などの家で寺小屋が開かれました。



東雲義校・東野小学校の時代



明治四年七月「文部省」が置かれ、次いで五月八日に「学制」が発布されました。これにより、東野も明治六年二月に寺小屋を廃し、宗久寺を借りて「東雲義校」を開き、岩村藩より伊藤・石橋・福島・小林の諸先生を迎え、漢字、習字、和算の三学科を教えました。

「学校は各人の立身治産に役立つものであるから、その費用は人民自ら負担すべきである」と強調され、人々の寄付金によることとなりました。その意味で「義校」と称して「東雲義校」といわれてきました。

明治八年東野小学校と改称し、今までの漢文にかわって、普通の文字の読み方、習字、算盤の勉強をしました。当時、各地で校舎が新築されました。東野では明治九年三月、現在の場所に間口十八メートル、奥行十一メートルの平屋板葺きの校舎が建てられ、四月から下等小学校四年間と上等小学校四年間を勉強することになりました。しかし、農業が中心であるという家では、子守りや農作業の大切な働き手であったため就学率は低かったです。



東野尋常高等小学校の時代

明治三十六年には、音楽が唱歌として

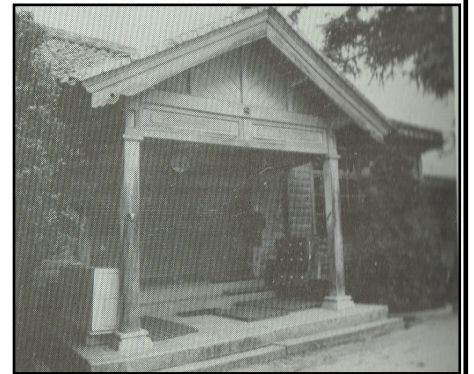
新しく加えられ、また高等科三、四年生は農業（農業補習学校）を勉強することになりました。この頃になると、年ごとに就学率が増加し、従来の校舎では、収容ができなくなったため、校舎を改築することになり、明治四十一年二階建ての堂々たる校舎ができました。しかし、落成式を前に失火により全焼したので一時宗久寺を仮校舎として授業を行っていました。

やっと新しい校舎で勉強できるようになりました。

明治四十三年には再び校舎ができ、

東野国民学校の時代

昭和十二年の日華事変の後、教育にも軍事的色彩が濃くなり、太平洋戦争が起こるとともに戦時教育体制が確立されました。昭和十六年には「国民学校令」が公布され、東野国民学校となりました。戦争が激化するとともに、毎日のように出征兵士が学校の玄関から送られました。



そして、英霊の迎え、勤労奉仕、空襲、品不足等により教育の正常な機能はほとんど停止してしまいました。

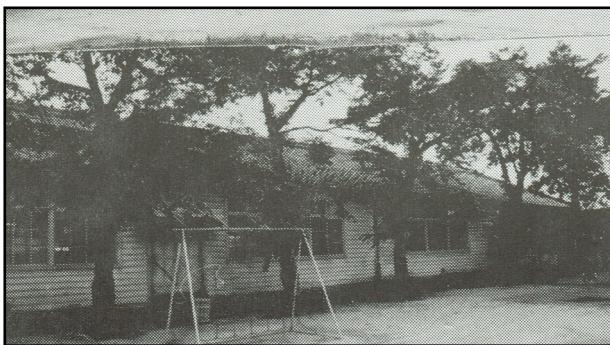
第二次世界大戦の終わりごろ、名古屋市の御剣小学校の児童たちが東野に疎開してきて宗久寺に泊まって勉強をしていました。

また、昭和二十年には保育園ができ、幼児に対して保育が始まりました。

東野小学校旧校舎の時代

戦後教育の混乱は大規模な教育改革により次第に平静を取り戻しました。戦後の急激な変化に最初は戸惑っていたかと思われませんが、新しい教育や社会に慣れてきたのだと思われれます。また、文化の発達とともに、教育水準も世界の先進国と並ぶまでに成長してきました。

東野小学校においても教育諸条件の整備が国や地方公共団体のもとで着々と行われました。それに合わせて先生方の努力や保護者の献身的な協力、児童の自ら学ぶ意欲の向上等によって学校も大きく成長しました。そして、昭和四十一年には、東農地区の実験学校として、この地域の先進的な役割を果たすまでになりました。



現在の教育課題



数々の変遷を経て、現在の教育体制があります。

しかし、これも決して万全ではなく課題も多々あると思います。いつの時代でも、社会情勢の変化や子どもの実態の変化などにより、その時々課題が浮き彫りになってきます。

現在の教育課題は数多くあると思いますが、あえてあげるとすると、大きく二点あげられます。

一つ目は、学力の低下に対応すべきこと

つまり、基礎学力の着実な定着

二つ目は、少子高齢化時代に即した教育

一つ目については、国や県の方針で、少人数学級や少人数指導に力点をおいて、できるだけ個に応じた教育を実施し、一人一人に基礎学力を身につけさせるよう努力されているところです。

一方で、二つ目ですが、少子化の急激な進行で、田舎の学校では、深刻な生徒、児童減の問題に直面しています。人数が少なければ少ないほど個に応じた教育ができてよいと思われるのですが、学校は知識だけを身につけるところではありま



せん。多くの仲間とふれあい、協力しあい、競い合って、社会性を身につけながら、集団（社会）の中で生きていく力を身につける所でもあります

当然、そのためには、学校には、それ相応な人数の児童生徒がいなくてはなりません。

少子化の流れの中で、そういった環境が各地の学校で失われていっているののみのがせない現状です。

一方で、少人数での教育。もう一方で大人数での教育。一見矛盾しているように思われますが、どちらも大切だと思います。

現状では、できるだけ人数の多い集団の中で社会性を磨き、その中で、少人数の学習集団を作り、できるだけ個に応じた教育を実現していくという方向で教育行政は努力しているところだと思います。

思い出（明治中期ごろ）

東野小学校は明治六年東雲義校として発足し、明治9年今の所に平屋板葺き紙張りの校舎ができました。私は、明治26年、満6歳で入学しました。当時も入学児童の年齢は満6歳と定められていましたが、同級生でも5歳くらい年上の者がいました。また、女子は2、3年で退学し、卒業する時は4、5人になっていました。

服装は先生も大部分は和服で、袴をはいていました。生徒はもちろん和服ばかりでほそいひもの付いた着物で、冬はその上にそでなしか、はんでんを着ていました。それでも式の時は羽織袴でした。もちろん靴などは見られませんでした。雨天の時は下駄、晴天の時は藁草履でした。

その頃は音楽はなく、3年生のとき、長島小学校の西尾鎌吉校長先生に初めて君が代を教えてもらいました。オルガンが無かったので、長島小より運ばれてきました。

運動会はあまりありませんでしたが、遠足は度々ありました。ある時、岩村城跡を見に行き、旅館で風食に鯉の味噌汁で持参の握り飯を食べた覚えがあります。

尋常4年を卒業すると、大井の高等科へ入学しましたが、東野より入学したのは、5・6名であったと思います。もちろん女子は皆無でした。

（千藤 茂美さん 明治29年卒）

東野ふるさと作品展・写真展

写真展

今年の「ふるさと写真展」も文化祭の作品展と同時に開催いたしました。全部で54点の応募がありました。観者の投票の結果、安藤秀美さんの作品が優秀賞に輝きました。



作品展

今年の文化祭も、コロナの感染者が多く、密を避ける必要があったため、歌舞伎、音楽祭、バザーなどは中止となりました。作品展については、期間を長めにとって感染対策をしっかりと実施いたしました。

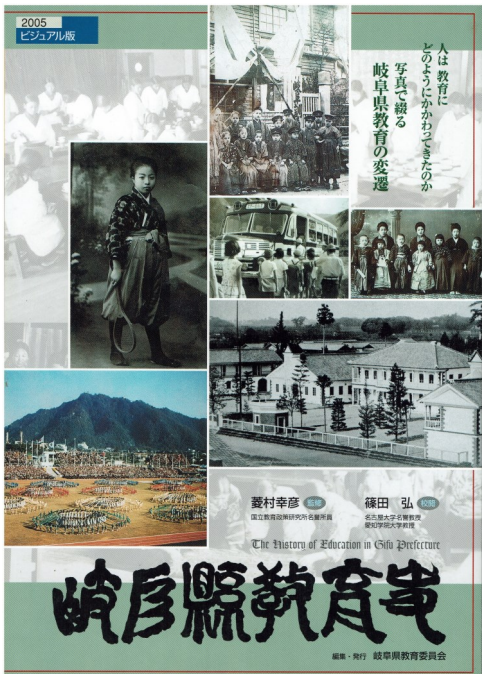
作品展には、東野こども園の園児や東野小学校の児童の作品をはじめ、地域の文化団体（あすなろ会）、福祉機関（ハートホーム東野）などの諸団体に加え個人で出品して下さった方が多くみえました。コロナ禍で、参加が心配されましたが、皆様方のご支援で無事開催できました。ご協力に感謝します。

東野地域安全パトロール

金曜日 16:00~17:00

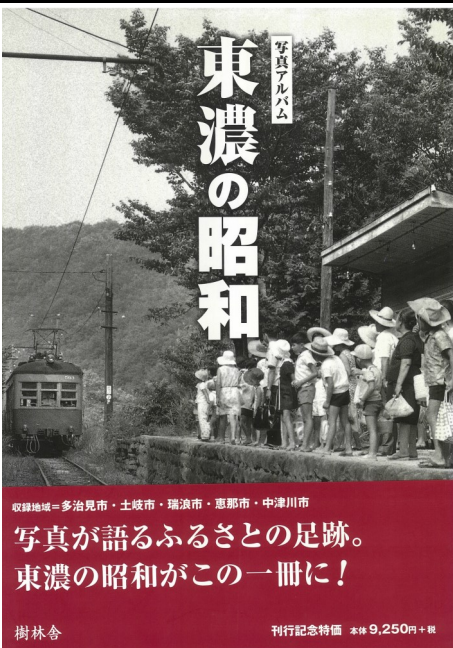
2月	
3日	恵那東中学校PTA
10日	東野こども園育友会
17日	交通安全協会東野支部
24日	東野生産森林組合
3月	
3日	東野壮健東雲連合会
10日	東野青少年育成会議
17日	東野民生児童委員
24日	公務員OB会

本を紹介 岐阜県歴史資料保存協会より「岐阜県教育史」という本（図鑑）をいただきました。（私物）この本には、岐阜県の明治初期からの学校の移り変わりや、岐阜県教育に携わってきた主な人物の紹介、教育制度の変遷など分かりやすく綴ってあります。ご覧になりたい方は東野コミュニティセンターまでお声かけください。



干支の置物をお借りしました

毎年、宮の前の河村志賀子さんより干支の置き物をお借りして、階段の踊り場に展示してあります。今年ではウサギの置物をお借りしました。



「東濃の昭和」宮の前の渡辺浩二さんより寄贈していただきました。小野川の保古川に架かる鉄橋の写真昭和13年）や昔の東野小学校の校庭で映ったテニスチームの記念写真（昭和24年）も載っています。コミセンの図書コーナーにあります。その他、東濃全域の懐かしい写真がいっぱい掲載されています。ぜひ、ご覧下さい。

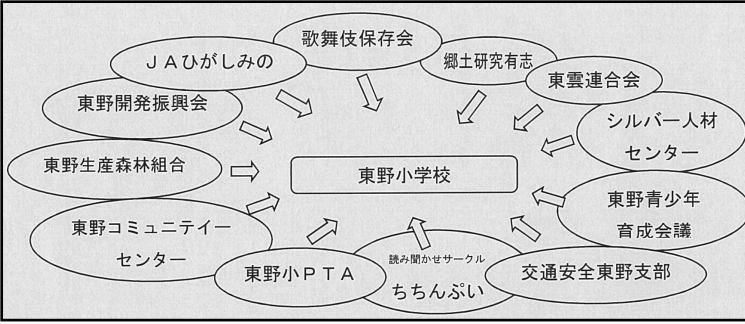
東野地区地域学校協働活動

小学生間伐体験

東野生産森林組合と赤尾さんの支援を受けて、東野小学校5年生のみなさん14名が間伐に挑戦しました。令和4年11月24日、まず、組合長の三宅一彰さんの話を聞いた後、赤尾さんの指示で間伐をしました。子供たちは、3つのグループに分かれ、間伐の木を決めた後、説明していただいた手順に

沿って切り倒しました。間伐は、森を守るためには必要なことです。子どもたちは、間伐を終えた後の明るくなった空を見上げて、気持ちよさそうでした。

（東野生産森林組合）



資源回収と奉仕作業

11月20日に東野小学校で、PTAの資源回収と奉仕作業が行われました。デポの関係でやはり量が少なかったようです。資源回収の後、PTAの奉仕作業として、校内の清掃作業が行われました。PTAの皆さんは、窓ふきや蛍光灯の掃除に汗をかきました。



（東野小学校PTA）

ストリートダンス

5年生が東野音頭に詳しい地元の人達と日本ストリートダンススタジオ協会のインストラクターを講師に迎え、東野音頭を取り入れたストリートダンスを創作しました。参加した児童は、「東野音頭の歌詞には東野のよいところがたくさん出てきました。東野音頭の動きをダンスに上手く取り入れられてすごく楽しかったです。」と話していた。

（外部講師）

東野小学校クラブ発表会

11月16日に予定されていた東野小学校クラブ発表会が、コロナのため、30日に延期され、実施されました。毎年この時期東野小学校では、4月から取り組んできたクラブ活動の発表会を開催しています。



今年は11月30日に東野小学校体育館にて開催されました。コロナがまん延していて、一部制限をかけての発表会でした。

（クラブ活動外部講師）

環境整備作業

毎年、恵那市シルバー人材センターの東野支部の会員のみなさんが奉仕作業として、東野小学校の校庭を掃除してくれています。今年も11月11日に桜の木の剪定や花壇の掃除などに汗を流しました。

（シルバー会員）

東野ふれあいウォーキング

オススメ散策コース

※各コースの距離は寄り道を除きます。



野ふれあいウォーキングが行われま
した。役員と参加者で合計40人
ほど集まり、曇り空のなか少し寒
かったですが、楽しいウォーキング
になりました。

新型コロナウイルス感染症予防の
ため、ほとんどのイベントが中止さ
れてきましたが、3年ぶりのイベン
トとあって、密に気を付けながらも
和気あいあいのウォーキングにな
りました。



令和4年12
月4日、市民
三学東野委員
会、東野体育
協会、壮健東
野青少年育成
会議の4団体
の主催で、東

この企画は、昨年度市民三学東野委員会が
リニューアルした「東野散策マップ」に紹
介されている「オススメ散策コース」を実
際に歩いてみる企画でした。おすすめコー
スは3コースあって、Aコースは宮の前
面、Bコースは上の平から松の木墓地を
回って来るコース、Cコースは阿木川ダム
方面のコースで、それぞれのコースに史跡
があるので、実際に見学しながらの散策に
なります。



Aコース 主な見
学場所は、貴船・
若宮神社、陣屋の
跡地、染戸の五輪
塔と阿弥陀堂、宝
篋印塔、宮の前の
五輪塔、大門の常
夜灯などです。

貴船・若宮神社
では、氏子の方
が掃除をして見え
ました。一年間の
汚れを落として、
新年を迎える準備
だと思いま

Bコース 主な見
学場所は、鷲尾神
社、度会神社、開
墾記念碑、常夜灯
、六地藏、森見堂
などです。

このコースは参加
者が少なく、それだ
けに和気あいあいと
楽しく回れたよう
です。

Cコース このコー
スには体育協会が手
配したノルディック
ウォークの講師（マ
ルホの堀さん）も同
伴し、体力作りもか
ねてのウォーキング
になりました。

主な見学場所は、
咳神岩、広田神社、
八坂神社、藤川翁
顕彰碑、杉山の清
水、阿弥陀堂、風
穴跡、庵寺など
です。

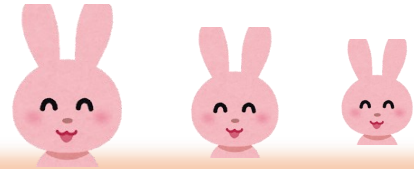
阿弥陀堂へ続く階
段はとても厳しく、
後日、足がパンパン
になったという声
が聞こえてきました。



東野散策マップの在
庫が少々あります。
希望される方は東野
コミュニティセンター
までお越しください。



乳幼児学級★すくすくクラブ



令和5年度の募集が始まります

◆0～3歳までのお子さんをお持ちのご家族の活動です。

◆途中からの参加も可能です。お気軽にお声掛けください。



★活動のようす
★防災と食育
★ことも園訪問
★クリスマス会



12/23 文化センターで中央・武並・三郷・武並・中野方・笠置・飯地・東野合同クリスマス会がありました。すくすくのみんнамorphismに合わせて歌ったり、踊ったりと楽しんでいました。サンタさん・トナカイさんからプレゼントをもらい、おもちゃを作りました。他地域の子ども達に圧倒されちゃったかな。いいひと時を過ごすことができました。

発行
東野コミュニティセンター ☎二六一二五五
東野地域自治区運営協議会 ☎二六一二四四

小学校時代の思い出（ぎんなん文庫）
昭和三十年代の終わりごろ、東野小学校の旧校舎の南西の隅に大きなイチヨウの木がありました。毎年秋が過ぎる頃、黄色いきれいな葉と、異様なにおいのする実が落ちてきます。高学年になると、その落ちている葉と実の掃除当番が回ってきます。葉は、「ゴミ捨て場に捨てますが、実は皮をむいてバケツに集めます。皮から出る汁に触れるとかぶれるので気を付けなければなりません。皮をむいた実がぎんなんです。ぎんなんがまとまって集まると、先生がお金に換えてくれました。そのお金で本を買って、図書室に入れてもらいました。
これが「ぎんなん文庫」です。
図書室に入るとちょうど部屋の真ん中あたりに小さな書架があって、その一番上の棚に、横書きで「ぎんなん文庫」と書かれた札が置いてありました。本の多くは、低学年用の絵本だったと思います。
かぶれるのでぎんなん集めはとっても嫌でしたが、図書室の「ぎんなん文庫」を眺めると、なんだか誇らしい気がしました。